

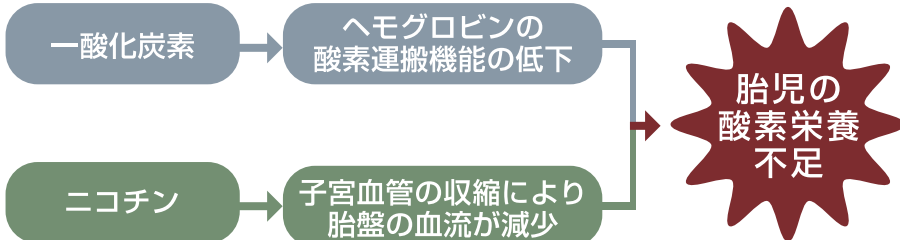
# 聞こえますか? お腹の赤ちゃんの 苦しい声

赤ちゃんが苦しんでいます。

大切な命綱、へその緒(臍帯)。臍帯にはたくさんの血液が流れています。臍帯によって運ばれた血液から、赤ちゃんは育つのに必要な酸素や栄養を確保しています。

お母さんが喫煙すると、ニコチンの作用により、臍帯や胎盤、赤ちゃんの血管が収縮して血流が減少するため、赤ちゃんに運ばれる酸素や栄養が少なくなってしまうのです。また高濃度の一酸化炭素(CO)が赤ちゃんの血液に移行するため、さらに酸素欠乏症状に陥っているのです。

これはお母さん(妊婦)だけでなく、周囲の喫煙でも起こるので、受動喫煙\*をうけないようにしましょう。



\* 受動喫煙とは、周囲の喫煙者の煙を吸わされること。

# こんなにあるの? 妊娠中のたばこの害

妊娠中の喫煙によって、胎児に多くの影響が見られます。また、お母さん自身にもさまざまな妊娠合併症のリスクを増大させます。

- 低出生体重児(2,500g以下) 産まれる頻度は約2倍
- 流産・早産
- 出血・早期破水
- 妊産婦死亡
- 胎盤の異常  
前置胎盤 1.3-4.4倍  
胎盤早期剥離 1.4-2.4倍
- 周産期死亡\*
- 将来のメタボ予備軍に...  
将来のお子さんが肥満や糖尿病になりやすい
- 先天性疾患  
赤ちゃんの遺伝子や細胞にダメージ
- 発達の遅れ  
ニコチンの神経毒性作用で脳は大きなダメージを受けます

\* 周産期死亡とは、妊娠22週以降に死産したり、生後1週未満に新生児が死亡すること。